

News 1 「ディスカバー農山漁村の宝」選定地区を決定



マフトピックス

MAFF TOPICS

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。「MAFF TOPICS」では、農林水産省からの最新ニュースなどを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けいたします。

取材・文／細川潤子



あふラボ

「青いキク」が誕生

2種類の遺伝子で 花弁を青色に

キクは日本の切り花類の出荷量の約40%を占める重要な花です。白・黄・オレンジ・赤・緑などさまざまな花色があっても青はなく、開発が望まれていました。

キクには青い花を持つ交雑可能な野生種が存在しないため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）では、サントリীগローバルイノベーションセンター株式会社と共同で、遺伝子組換え技術を用いた青いキクの開発に取り組みました。まずは青紫色のキャンデュラの遺伝子

を取り入れましたが、紫色にしかならなかったため、より鮮やかな青色を目指して研究・開発を進めました。そして、青いチョウマメから取り出した別の遺伝子を働か

せることで、花色を青色にすることに成功。「青い色」の花はいろいろありますが、パンジーの遺伝子などではうまくいかず、キャンデュラとチョウマメの遺伝子でう



新しい青色のキク。これまでのイメージを一新。

まくいくことがわかりました。また、遺伝子を導入できる品種の選抜にも時間がかかり、苦労しました。今までは仏花の需要がほとんどでしたが、新たな色ができることによって、パーティーやお祝いの場でも用いられる

といいと思っています」（農研機構野菜花き研究部門花き遺伝育種研究領域・野田尚信さん）さらに、キクのほかバラやカーネーションなどにも応用できる可能性があります。

現在、青いキクは、デコラ咲きやボンボン咲きなど、さまざまな種類で開発中です。今後は野生種との交雑による生態系への影響リスクを回避する技術を開発しながら、10年後の完成を目指しています。

日本でもっとも親しまれている花き・キク。さらに青い色に加われば、キクの新たな楽しみ方が生まれることでしょう。

青いキクが
できるまで



もとのキク



紫色のキク



青色のキク

もとの桃色のキクにキャンデュラの遺伝子を導入すると紫色のキクになり、さらにチョウマメの遺伝子を導入すると青色のキクに。導入した遺伝子の働きで新たにつくられたアントシアニン（※）は単独では青紫色に発色するが、もともとキクの花弁が持っている無色のフラボン（※）と共存して相互作用することで、青色に発色する。



キャンデュラの
遺伝子を導入



チョウマメの
遺伝子を導入

ボンボン咲き



まん丸い形のボンボン咲き。かわいらしさとおしゃれ感がある。

デコラ咲き



華やかでアレンジメントによく用いられるデコラ咲き。

※アントシアニンとは、紫色などの発色を担う色素のこと。
フラボンとは、アントシアニンと似た化学構造を持つ無色から淡黄色の色素のこと。



昨年選定された愛知県豊根村「茶臼の里合同会社」。耕作放棄地を解消し、都市との交流を行う。



6月にJR熊駅で行われたマルシェ。



昨年12月には東京・有楽町でもマルシェを開催。即売会のほか、選定地区のパネル展示も行われた。

「ディスカバー農山漁村の宝」第4回選定地区一覧

No.	都道府県	市町村	地区名
1	北海道	伊達市	観光物産館農産物販売協議会
2	北海道	中川町	中川町商工会
3	北海道	中標津町	なかしべつ菌床栽培協同組合
4	岩手県	釜石市	釜石地方森林組合
5	山形県	南陽市	おりはた環境保全協議会
6	福島県	泉崎村	社会福祉法人こころん
7	千葉県	木更津市	木更津市観光ブルーベリー園協議会
8	長野県	生坂村	(公財)生坂村農業公社
9	長野県	長野市	信州ジビエ研究会
10	静岡県	伊東市	いとう漁業協同組合富戸支所ダイビングサービス
11	新潟県	南魚沼市	特定非営利活動法人南魚沼もてなしの郷
12	富山県	富山市	特定非営利活動法人愛和報恩会
13	石川県	川北町	農業法人有限会社わくわく手づくりファーム川北
14	石川県	七尾市	農業生産法人株式会社スギヨファーム
15	福井県	あわら市	特定非営利活動法人ピアファーム
16	岐阜県	高山市	(有)飛騨山椒

No.	都道府県	市町村	地区名
17	愛知県	安城市	明治用水土地改良区
18	三重県	南伊勢町	農事組合法人土実樹
19	京都府	南丹市	美山ふるさと株式会社美山町自然文化村
20	京都府	和束町	一般社団法人えん - TRANCEわづか
21	和歌山県	古座川町	古座川ジビエ振興協議会
22	鳥取県	若桜町	わかさ29工房
23	島根県	飯南町	飯南町注連縄企業組合
24	山口県	山口市	株式会社Archis
25	徳島県	美波町	「四国の右下・魅力倍增」推進会議
26	徳島県	三好市	おおほけい組合いってみる会
27	高知県	日高村	日高村オムライス街道推進プロジェクト
28	福岡県	八女市	八女地域連携協議会
29	佐賀県	多久市	ひらの棚田米振興協議会
30	熊本県	阿蘇市	NPO法人ASO田園空間博物館
31	沖縄県	糸満市	糸満市観光まちづくり協議会

詳細はこちらへ！

ディスカバー農山漁村の宝▶



読者の声

読者の皆さまから寄せられた
『aff(あふ)』10月号への
ご意見・感想を紹介します。

「もったいない」の記事を読み、改めて自然の恵みに感謝し、食べものを大切にしなければと思いました。まずは、家庭でできることから始めたいと思います。(40代・女性)

食品ロスの量に驚きました。生産者や料理を作ってくれる人のことを考えれば、ロスは減っていくと思うのですが。日本人として残念です。また、6次産業化が食品ロスの削減にもつながっていくといいなと思いました。(30代・男性)

「米粉」の特集で紹介されていたWebサイトから動画を見て、米粉のシフォンケーキを作ってみました。しっとり、もちりとしたケーキに仕上がりました。これからもいろいろな料理に使ってみたいと思います。(40代・女性)

「未来を担う生産者」の、刺身のつまの記事を、とても興味深く読ませてもらいました。これからつまを食べるときには、作っている人の思いをかみしめて絶対に残さないようにします。(50代・男性)

「ニッポンの郷土料理」で宮城県の芋煮が載っていましたが、山形の芋煮を食べる機会があり、郷土料理のすばらしさを改めて実感しました。(50代・男性)

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



メールマガジンのご案内

大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週月曜日に発行しております。ぜひご覧ください。無料です。
<http://www.aff.go.jp/j/pr/e-mag>

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

絶滅危惧種の保全が環境学習のきっかけに

多面的機能支払交付金
[第6回]

近い将来絶滅の危険性が極めて高い淡水魚イバラトミヨが生息している秋田県大仙市中仙南部地区。平成19年度に行ったほ場整備事業に伴い、これら地域の貴重な動植物のための保全池が新たに作られ、大仙市中仙南部広域活動組織が管理を行ってきました。しかし、その後の数年間は、イバラトミヨの個体数の増加が確認できませんでした。

このため活動組織と大仙市が連携し、市が26年度にこの保全池に浅瀬の設置や水草の移植をするなど営巣・生育環境を整備。組織が交付金を活用し、啓発のための看板を設置するとともに、継続的に保全池周辺の草刈りや日常の水管理をしたことで生育環境が改善し、個体数の増加が確認されました。

また、組織と地元小学校が連携してイバラトミヨが増えた保全池での生き物調査を行うことで、子どもたちが地域の豊かな自然環境を認識するきっかけにもなっています。

イバラトミヨの生育環境を整備



保全池の全景。イバラトミヨの生息を紹介する看板を設置し、絶滅危惧種保全の啓発活動も実施。

調査で採取したイバラトミヨ。秋田県南部内陸地方を中心に分布する「トミヨ属雄物型」は中でも稀少。きれいな冷水を好み、湧泉とそれに連なる水路に生息する。



保全池が再生され、小学生たちが池に入って、調査に参加。

写真提供：大仙市

多面的機能支払交付金とは…

農業・農村の有する多面的機能が、適切に維持・発揮されるよう、農用地や水路、農道等の地域資源を保全している地域の共同活動を支援するための交付金です。

News 2 「食育活動表彰」の募集を開始

【ボランティア部門】



上／食育プログラム開発チーム食育戦隊ゴハンジャー（山口県立大学）の活動メンバー。
右／「ゴハンジャー」は三色食品群（赤：体をつくるもと、黄：エネルギーのもと、緑：体の調子をととのえるもと）をイメージ。



NPO法人霧島食育研究会「霧島畑んがっこ」の田植え風景。食農体験活動や郷土料理継承活動を実施。

【教育関係者・事業者部門】

右／熊本県立大学「郷土料理カフェ@仮設住宅」。震災復興支援として料理教室を行った。
下／西三河農協「かかしづくり体験」の様子。小学生対象の米づくり体験学習のひとつ。



※写真はすべて平成28年度のものです。

**優れた取り組みを表彰し
全国展開を目指す**
食育の推進には、農林水産省や食品製造・販売等の事業活動、教育活動やボランティア活動を通じて、食育関係者による取り組みが全国で幅広く行われることが重要です。
このため、食育を推進する優れた活動の功績をたたえ、同時に、

広く周知し、全国に展開していくことを目的として食育活動表彰を行っています。
昨年行われた第1回では、261件の応募があり、その中から6件に農林水産大臣賞、13件に消費・安全局長賞が授与されました。
農林水産大臣賞を受賞した山口県立大学では、平成18年度から、学校やスーパーに出向いての自作

キャラクターにふんじた啓発や、絵本の作成による情報発信などを実施。先輩から後輩に10年もの間、引き継がれています。
このような魅力的な活動によって、食育がさらに広がるよう、今年も多くのご応募をお待ちしています。
また、受賞者は、来年6月23日、第13回食育推進全国大会（大分県）において表彰されます。

「食育活動表彰」の募集について

締切：
【ボランティア部門】平成29年12月25日（月）必着
【教育関係者・事業者部門】平成30年1月10日（水）必着

表彰：
日時：平成30年6月23日（土）
場所：第13回食育推進全国大会（大分県・予定）
農林水産大臣賞7点、消費・安全局長賞14点以内

応募方法はこちらへ！

食育活動表彰 ▶

